

# 平成28年度学校自己評価システムシート (県立本庄高等学校 定時制課程)

目指す学校像	生徒一人一人を大切にし、知・徳・体の調和のとれた教育を行う。
--------	--------------------------------

重点目標	1 授業改善による学力向上 2 生徒理解に基づいた進路指導の充実 3 基本的な生活習慣と規範意識の定着、自己肯定感の醸成 4 保護者・地域との連携による開かれた学校づくり
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

学校自己評価					年度評価(2月8日現在)	
年度目標					年度評価(2月8日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	生徒の多様化及び在籍者数の増加により、学習意欲や習熟度に著しい差が生じている。生徒一人一人へのきめ細かい指導を実践するための学習環境整備や生徒個々に関する的確なアセスメントが今まで以上に必要になっている。	<p>少人数指導等の授業工夫や授業アンケートの分析等を通して授業改善に努める。</p> <p>生徒の多様化に応じた学習支援策を構築する。</p>	<p>①習熟度別授業・少人数授業によるきめ細かい授業の展開及び授業改善に向けた教職員研修の推進に取り組む。</p> <p>②授業アンケートの分析結果を授業改善に生かす。</p> <p>①学習サポーター事業や多文化共生推進事業の支援策を活用し、生徒個々の学力向上に取り組む。</p> <p>②毎日の職員打合せ等を利用し、生徒一人一人の情報を全職員で共有し、個々の生徒に必要な支援・指導を迅速かつ組織的に行う。</p>	<p>①きめ細かい授業により生徒の学習意欲や学力が向上したか、また、教職員研修が実施できたか。</p> <p>②授業アンケートの分析結果を活用することができたか。</p> <p>①支援が必要な生徒の学力が向上し、欠点保有生徒数が減少したか。</p> <p>②生徒の情報の共有を質量ともに十分にいき、きめ細かい指導が行えたか。</p>	<p>習熟度別授業・少人数授業の展開や授業アンケートの分析・活用などにより、授業の質を向上させることができた。</p> <p>①授業に対する生徒の興味関心が向上したことがアンケート結果に表れた。授業改善に関する教職員研修も11月に実施した。</p> <p>②全職員が全生徒の授業アンケートの結果を情報共有し、指導に活用することができた。</p> <p>生徒の多様化に応じた様々な支援策を十分活用することができた。</p> <p>①学力や意欲が向上した生徒がいる反面、全体として欠点保有生徒数の大きな減少につなげることができなかった。</p> <p>②全職員が緊密に生徒の情報共有・情報交換を行いながら、一人一人への的確な支援・指導に当たった。</p>	A
2	卒業後の進路に対する具体像が描けない生徒や、正規雇用を希望しながら実現が困難な生徒が多くみられる。早い段階での進路意識の育成と進路実現のための資格取得・スキル獲得が大きな課題である。	<p>就労支援を含め、4年間を見とおした進路指導を行う。</p> <p>進路希望の実現を図るための適切な支援に取り組む。</p>	<p>①在学中からの就労を指導・支援し、働くことの意義等を身につけさせる。</p> <p>②キャリア教育や自立支援教育に関する外部資源を有効活用し、生徒のキャリア意識の高揚を目指す。</p> <p>①資格取得、検定合格への挑戦を計画的に支援する。</p>	<p>①生徒の就労率が向上したか、また進路意識が変容したか。</p> <p>②外部資源の活用による生徒の意識変容が見られたか。</p> <p>①資格、検定試験に取り組む生徒が増加したか。</p>	<p>卒業後の進路実現に向けて生徒の意識を向上させるために様々な支援に取り組んだ。</p> <p>①きめ細かい支援に取り組んだが、就労率の大きな向上には至らなかった。</p> <p>②外部資源の活用による新規の進路行事を実施し、生徒の望ましい意識変容が見られた。</p> <p>生徒の資格取得・検定合格に向けた支援を実施することができた。</p> <p>①検定合格者が昨年度比4倍増となった。</p>	B
3	様々な生育歴・学習歴を持つ中で、自分に自信の持てない生徒や基本的な生活習慣が身に付いていない生徒が見られる。また、自主性やチャレンジ精神のさらなる育成も必要である。	<p>あらゆる指導場面で自己肯定感を醸成するとともに、基本的な生活習慣の定着を図る。</p> <p>生徒の自主性を発揮できる場を学校生活の中につくる。</p>	<p>①登校時の声掛け指導に取り組み、生徒一人一人の心身の状況を確認する。</p> <p>②個人面談や家庭との連携に取り組む、基本的な生活習慣の定着を図る。</p> <p>③落ち着いた雰囲気の中で授業が行われるよう授業規律の確保に努める。</p> <p>①生徒の自主性を発揮できる場として、生徒会役員生徒へのきめ細かい指導・支援に取り組む。</p>	<p>①声掛け指導の継続により心の交流をベースとした生徒指導が行えたか。</p> <p>②個人面談や家庭との連携に定期的に取り組めたか。</p> <p>③落ち着いて集中できる学習環境を構築できたか。</p> <p>①生徒会活動の活性化がすすめられたか。</p>	<p>自己肯定感の醸成と規律指導の充実を図りながら、生徒指導や心の教育に取り組んだ。</p> <p>①登校時の声掛け指導を毎日継続できた。</p> <p>②担任によるきめ細かい生徒個人面談や家庭との連携が年間を通して実施できた。</p> <p>③授業担当者の的確な指導により、落ち着いた良い雰囲気の学習環境が構築できた。</p> <p>昨年度以上に生徒会活動が活性化した。</p> <p>①学校行事に向けて、生徒会役員生徒が自ら考え行動する場面が多々見られた。</p>	A
4	保護者・地域の本校に対する理解・協力が着実に進んでいるものの、さらなる情報発信や開かれた学校づくりの推進が必要である。	<p>保護者・地域に幅広く情報を発信する。</p> <p>開かれた学校づくりに取り組み、保護者・地域の声を教育活動に生かす。</p>	<p>①「定時制だより」を通して、保護者・地域へ本校の情報を発信する。</p> <p>②ホームページの更新頻度を高め、定時制の教育活動を幅広く発信する。</p> <p>①保護者、地域及び学校評議員への授業公開の増加、拡大、発展に取り組む。</p>	<p>①「定時制だより」の発行回数を増加できたか。</p> <p>②ホームページの更新回数を増加できたか。</p> <p>①授業公開等により、開かれた学校づくりを推進できたか。</p>	<p>様々な発信ツールを通して、定時制の教育活動に係る情報提供を行った。</p> <p>①「定時制だより」の発行回数を増加した。</p> <p>②ホームページの更新頻度は昨年度とほぼ同様であった。</p> <p>保護者や地域への開かれた学校づくりに取り組み、定時制教育への理解を深めることができた。</p> <p>①給食試食会や授業公開の対象を拡大し、参加者が述べ13人増加した。</p>	A

学校関係者評価
実施日 平成29年2月17日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>アンケート結果からも、授業に対してしっかりと取り組んでいる生徒が多いことがわかる。少人数指導等のメリットを十分生かしながら、次年度も生徒の学力向上を目指して「わかる授業」の実践をお願いしたい。</p> <p>進路意識の醸成に向けて新たな行事に取り組むなど学校が頑張っている様子がうかがえる。卒業後の進路実現に向けて生徒への支援をさらに充実させてほしい。</p> <p>定時制では、生徒一人一人にきめ細かく指導している様子がうかがえる。生徒会活動がさらに活性化し、より多くの学校行事が開催できることを期待している。</p> <p>給食試食会や授業公開を通して、定時制教育への理解がさらに広がるとよい。今後も定時制に関する情報発信に積極的に取り組んでほしい。</p>